

<日本行動分析学会・自主公開講座>

家族のための “しなやか”な認知症介護

～認知症と「ダンス」する?!～

<講師>

S. M. McCurry 博士
(ワシントン大学看護学部)

日 時：2018年8月26日(日) 12:30～15:30
場 所：同志社大学今出川キャンパス良心館
定 員：200名 (申込先着順)
参加費：3,000円 (年次大会参加者は1,000円の割引)
お申込：以下の「申込フォーム」にてお申込ください
<https://goo.gl/forms/Rw6D1jBwklITbxiC2>
お問合せ先：rc-west@mail.doshisha.ac.jp

<共催>

同志社大学実証に基づく心理・社会的トリートメント (WEST) 研究センター
同志社大学心理臨床センター, 同志社大学心理学会

<日本行動分析学会・自主公開講座>



Susan M. McCurry 博士

ワシントン大学看護学部
心理社会・コミュニティ健康学科
研究教授， 研究副主任

<主な著作>

McCurry SM: *When a family member has dementia: Steps to becoming a resilient caregiver*. Praeger Pub Text, 2006.

McCurry SM, Drossel C: *Treating dementia in context: A step-by-step guide to working with individuals and families*. American Psychological Association, 2011.

認知症をよりよく理解し，認知症とよりよく生きるための実践的なツールとは？：このワークショップでは，認知症と診断された方のケアや，そのケアをする周りの方々の生活の質を改善するための実践的なアプローチをご紹介します。

まず，いかに認知症が人それぞれであるか（認知症のタイプというよりも，その人の「かけがえのない」個人史，好み，生活環境によって），周りの人たちが，その症状をかかえる人の言動に，どのように反応してしますのかをお話します。また，このような情報収集がいかにケアに重要な役割を果たすのかをご説明します。

次に，行動の意図を知り，変化を生じさせるためのシンプルなツール（それをABC分析と言います）をご紹介します。そのツールによって，認知症の方が抱えやすい行動問題を解決する糸口を見つけることができます。最後に，認知症の方とそのご家族が，お互いに尊厳や尊敬をもち，ポジティブに過ごせるようにするためのツール（それをDANCEモデルと言います）をご紹介します。このDANCEとは，D=Don't argue!（言い争いをしない！），A=Accept the disease（症状を受け容れる），N=Nuture the caregiver（ケアをする人を支える），C=Creative problem-solving（問題解決策を生み出す），そして，E=Enjoy the moment（その瞬間を楽しむ）の5つのポイントを表す標語のようなものです。

この講座を通して，以上の3つのことを体験的に学び，明日からの実践に応用できるようになることを目指します。

<共催>

同志社大学実証に基づく心理・社会的トリートメント（WEST）研究センター
同志社大学心理臨床センター，同志社大学心理学会